

令和元年第5回(9月)定例会

令和元年9月10日(火)午前9時から和木町役場議事堂において、  
第5回和木町議会定例会を再開する。

○出席議員(10名)

1番	津島宏保	
2番	栗本詠子	
3番	嘉屋富公	
5番	上田丈二	
6番	灰岡裕美	
7番	上岡富士夫	
8番	小林秀嘉	
9番	森脇明美	
10番	中村充子	副議長
11番	兼本信昌	議長

○説明のため出席した者

町長	米本正明	
副町長	河内洋二	
企画総務課長	田中雅彦	
税務課長	吉岡司	
住民サービス課長	坂本啓三	
都市建設課長	村岡辰浩	
保健福祉課長	森本康正	
教育長	重岡良典	教育委員会
事務局長	渡邊良平	〃

○会議に従事した職員

事務局長	田中敬子
書記	松島久子

開	会	9時00分
議	長	おはようございます。 携帯電話をお持ちの方は電源をオフにされるようお願い致します。
議	長	これから本日の会議を開きます。 本日の議事日程は、お手元に配布してあるとおりです。
議	長	日程第1 一般質問を行います。 質問の通告が6名です、通告順に質問を許可します。 質問順位1番 3番議員 嘉屋富公君。
議	長	嘉屋富公君。
嘉屋	議員	おはようございます。 通告に従い質問させていただきます。 今年度をもって、防災行政無線デジタル化設備工事を終了すると言われているが、今の状態で良いのか。5年間にわたり、石油備蓄交付金を利用してデジタル化設備工事で、本局、中継局、子局、移動局の設置工事、調査、調整を行い和木町全域に音声調達ができていると聞き及んでいるが、艦載機部隊移駐後、騒音により聞きづらいと町民の声も有り、私自身も場所によっては、聞きづらいと感じました。そうしたことから、質問致します。 まず最初の質問です。石油備蓄交付金を5年間でトータル幾ら使って、防災行政無線デジタル化設備工事を行い、どういった方法で音達調査を行ったのか聞かせていただきたいと思えます。
議	長	田中企画総務課長。
田中企画	総務課長	防災行政無線デジタル化整備事業につきましては、平成27年度から始まり5年目となる今年度で完結をいたします。

防災無線のうち、町内各所にポール、あるいはスピーカー等を設置し、住民に対して同時放送を行う同報系防災行政無線のデジタル化整備は、平成27年度から30年度の4年間をかけて工事を行っております。町内24箇所の子局を整備し、役場設置の親局と合わせると25箇所にスピーカーを設置しております。これによりまして、和木町内ほぼ全域がカバーできています。和木地区に子局が10箇所、瀬田地区は10箇所、関ヶ浜地区に4箇所整備しております。

また移動系については、車載型や携帯型の移動局と役場との間で通信を行うもので、同報系が役場と住民との通信手段であるのに対して、移動系は主として行政機関内の通信手段といえます。配備先は役場の公用車、それから常備消防・消防団となっており、20箇所に配備しています。今回のデジタル化では、平成30年度と本年、令和元年度にかけて更新を行っております。

今回の整備事業では、工事費用5年間総額で3億4千万円、これに設計や工事管理委託費用を加えますと3億5千5百万円となっています。このうち3億2千万円を石油貯蔵施設立地対策等補助金で賄っており、不足分の3千5百万円が町負担ということになりますが、この3千5百万円のうち3千4百万円は交付税措置のある起債で対応しております。

また、音達調査方法ですが、設計時でのスピーカー等の機種変更による出力の数値確認等を行うとともに、施工管理業者立会いの下で、工事完了後に、町内屋外の各地点で騒音測定器と観測員を配置して音達範囲の測定を行い、現地での音の実際の音の聞こえ方、音量の測定数値とも問題がないということを確認したところでございます。

議長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 確かにこの工事にあわせて素晴らしく防災行政無線よくなったと考えられますが、必要性に合わせてチャイムをサイレンに変えてもよいと考えます。というのが教育サイレン、夕方鳴

っている音楽ですけど、これはどこに居ても聞こえるんですが音量調節や子局の流し方に違いがあるのではないかと考えます。先般、行われた防災訓練の時も、サイレンを鳴らして、町民全体に危機感を持って頂き、今後の災害に対しても、迅速かつ安全に行動できるように検討すべきでないかと考えます。そのためには、しっかりとしたマニュアルが必要と考えるが和木町にはあるのでしょうか。お答えをお願いします。

議 長 田中企画総務課長。

田 中 企 画 本町では、防災無線放送の始まりと終わりに通常ではチャイム  
総 務 課 長 ムの音を使用して、放送が始まりますよ終わりましたよというお知らせをしております。

サイレンの使用につきましては、大雨等による避難勧告発令時の警戒レベル4以上のときにサイレンを吹鳴し、その後に放送を流す事に決めております。これは今議員がおっしゃったマニュアルで決めております。これまでもこのマニュアルに沿ってサイレンを吹鳴した事例がございます。また、町内での火災発生時など、消防団を招集する際にもサイレンを吹鳴する場合があります。

防災無線の音声レベルにつきましては、3つの音量レベルを町では使っております。通常の放送は中レベル、避難勧告発令の際などにはサイレンを吹鳴するとともに、最高の高いレベルで放送することを決めております。

ご質問のありましたミュージックサイレンについては、子供たちが夕方に帰宅するよう促すとともに、防災行政無線の設備が正常に作動していることを確認するテスト放送として、毎日夕方に放送しています。

意外に思われるかもしれませんが、音量としては、普段の放送より低いレベルで放送をしています。聞こえやすいと感じるのは、毎日同じ時間に繰り返し放送されるということ、それから音楽に馴染みがあること、大竹市も同じ時間に放送を流されている、音楽を流されている、こういうことがあるのかなと思

います。また、通常の放送は、ハウリングが起こる恐れがありますので2回に分けて放送しておりますが、ミュージックサイレンは一斉に放送している、これも影響しているのかなというふうに思っております。

訓練時のサイレンについてご質問いただきました。防災無線での放送につきましては、聞こえないでありますとか、もっと頻繁に放送すべきだというご意見、また一方では、うるさいでありますとか、緊張感のない放送はやめろとか、いろんな意見をいただいております。様々な意見を以前からいただいております。

町では、このようなご意見を勘案しつつ、検討を加えて、現在の放送形態をとっております。

サイレンについては、吹鳴する事例をマニュアルに定めています。サイレン吹鳴について頻発させますと緊張感を欠く恐れがありますことから、限定的にしておく必要があると考えています。迅速かつ安全に行動できるように検討すべきとのご質問ですが、町ではこれまで災害情報伝達のために防災行政無線に加えまして、防災メール、町ホームページや文字放送、防災行政無線放送テレホンサービスなどを整備しています。また、台風・地震や弾道ミサイル等の重要な災害情報につきましても、国や県から緊急速報メールやJアラートなどの形で情報配信がされています。

今後も、災害情報の伝達については多重化、いろんな手段を考えると共に、町民の皆さまが迅速に避難し、安全が確保できるよう施策を積み上げて参ろうというふうに考えているところでございます。

議 長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 今、課長からの答弁につき1つずつ聞きたいと思います。

まず1つ目、まずこの防災訓練これに関しては本来の災害と同じようにサイレンで対応してはどうかと考えますが如何でしょうか。

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 先程申しましたとおり、サイレンの吹鳴についてはマニュアルで定めておきまして、現時点で訓練時にサイレンを使う事は考えておりません。議員のご意見も踏まえまして今後検討したいと思っておりますが、現時点では訓練時にサイレンを鳴らすことは考えていないという事はお伝えしておきたいと思っております。

議長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 私の方からも、議員、もしくは防災士として、一応訓練というのは本番と同じように務めるということを考えてますので、是非とも検討をお願いします。

2点目です。確かに町民からは騒音っていうか、寝る時間この辺にうるさいということがあるかもしれませんが、和木町も例外ではありません。高齢化社会進んでいます。確かに視覚・聴覚衰えている方が多いと思っております。その為にも是非とも一斉に流す、緊急時には一斉に放送を流すとかそういった対応を是非とも考えて頂きたいと思っておりますが如何でしょうか。

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 先程マニュアルに定めていると申しましたが、避難勧告発令時、レベル4以上の時には最大音量で流す、サイレンを吹鳴する、こういった事を定めております。先程の訓練時のサイレンについてなんですけど、議員は先日県の防災訓練の事のみをおっしゃっていますが、訓練にもいろいろございます。町全体で行う訓練もありますし、各自治会、自主防災組織で行われている訓練もありますので、その辺を踏まえますとですね、現在のあり方がより適当なのではないかと考えているところでございます。

議長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 是非とも前向きに、いい事はマニュアルを変更しながらでもいい方に展開していただきたいと思います。これが町民の安心安全にかかることなので、是非とも検討をよろしくお願いします。

次の質問に入ります。2年前から、同僚議員も質問されています。戸別無線機の対応はどうなっているのか。安全・安心な町づくりを掲げていくのなら、早期検討・早期対応が必要と考えるがどのように考えているのか。また検討の結果を聞かしてもらいたいと思います。

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 防災無線の戸別受信機の導入につきましては、防災行政無線デジタル化整備事業完了後に検討を行うという旨を回答させていただいております。今年度でデジタル化整備事業が完了することから、今後、戸別受信機の導入に必要な財源、それからどういった戸別受信機にするのかという種別、それから実施方法などを検討して参ります。

議長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 できましたら早期に対応して欲しいと思いますけど、結局デジタル化が終わりましてそれから考えるんでは後手っていうか遅いと思うんですよね、いついつ終わるからじゃあ次はこうしようというふうに前へ前へと早く動いていただきたいと思います。今後も和木町民の安心安全を考えながら、検討をよろしくお願い致します。

以上を以て私の質問を終わらせていただきたいと思います。

議長 再質問はございませんか。

議長 再質問がないようですので、以上で嘉屋富公君の一般質問を終わります。

